

ページ	誤	正
18	表 2.1 3 回回映軸 S_3 (-3) → 4 回回映軸 S_4 (-4) → 6 回回映軸 S_6 (-6) →	6 回回映軸 $S_6 = 3$ 回回反軸-3 4 回回映軸 $S_4 = 4$ 回回反軸-4 3 回回映軸 $S_3 = 6$ 回回反軸-6
20、21	不整 →	不斉
30, 31	diagonal →	dihedral
35	T_h 点群、 $3S_6$ →	$4S_6$
122	$c_2 = 0.82$	$c_2 = 0.85$
124	$\psi_1 = 1/2(\phi_1 + 2\sqrt{2}\phi_2 + \phi_3)$ → $\psi_2 = 1/2(\phi_1 - 2\sqrt{2}\phi_2 + \phi_3)$ →	$\psi_1 = 1/2(\phi_1 + \sqrt{2}\phi_2 + \phi_3)$ $\psi_2 = 1/2(\phi_1 - \sqrt{2}\phi_2 + \phi_3)$
134	$g_2 = 1/\sqrt{2}(f_1 - f_2')$ → $\sigma_v[g_3']$ → g_3	$g_2 = 1/\sqrt{2}(f_1' - f_2')$ $\sigma_v''[g_3']$ g_3
145	$s < 3d < 4s < 4p$ →	$\sigma < 3d < 4s < 4p$
150	π 対称関数の表中の E_{1g} 等	全て E_1 等(添え字 g, u をすべて削除)
163	対数関数 →	対称関数
175	表 10.4 表現 ${}^1B_2, {}^3B_2$, 分極 y → 表現 ${}^1B_1, {}^3B_1$, 分極 x	表現 ${}^1B_1, {}^3B_1$, 分極 x 表現 ${}^1B_2, {}^3B_2$, 分極 y
176	図 10.3、 π^* 軌道の表現 B_1	B_2
176	図 10.3、 $2p_x$ 軌道の表現 B_2	B_1
176	図 10.3、 π 軌道の表現 B_1	B_2
178	図 10.4、 x 軸と y 軸	y 軸と x 軸 (入れ替え)
179	表 10.5、 $\sigma(xy)$ →	$\sigma(xz)$
181	図 10.6、 $A_2(\nu_2)$ →	$A_1(\nu_2)$
182	角度をかえない全対称伸縮振動は前の ν_3 に相当し、角度のかわる A_1 が前の全対称変角振動 ν_2 にあたる。当然のことであるが、基底の選び方が違うので同じ基準振動でも両方で表現が違うのである。	(削除、あるいは) 角度をかえない全対称伸縮振動は前の ν_1 に相当し、角度のかわる A_1 が前の全対称変角振動 ν_2 にあたる。基底の選び方が違っても同じ基準振動の表現は同じである。

190	1388 cm ⁻¹	→	1320 cm ⁻¹
193	principle	→	principal
199	<i>L</i> の小さなものをとる	→	<i>L</i> の大きなものをとる
	アクチノイド系	→	(左でもまちがいは言い切れないが)) ランタニド系
	半分以下	→	半分未満
212	図 11.11 強い <i>O_h</i> 結晶場側 縦軸一番下		
	T_{2g}^2	→	${}^2T_{2g}$
242	<i>C</i> ₃ 指標表下の指標		
	<i>E</i> 2 -1/4 -1/4	→	<i>E</i> 2 -1 -1
	$2\cos 2\pi/3 = -1/4$	→	$2\cos 2\pi/3 = -1$
248	<i>D</i> _{4<i>h</i>} の回転ベクトル表現		
	<i>R</i> ₂	→	<i>R</i> ₂
249	<i>D</i> _{5<i>d</i>} 指標表の <i>E</i> _{1<i>u</i>} 表現の指標		
	-2cos144°	→	-2cos72°
252	<i>O_h</i> のクラス		
	8 <i>C</i> ₂	→	8 <i>C</i> ₃